

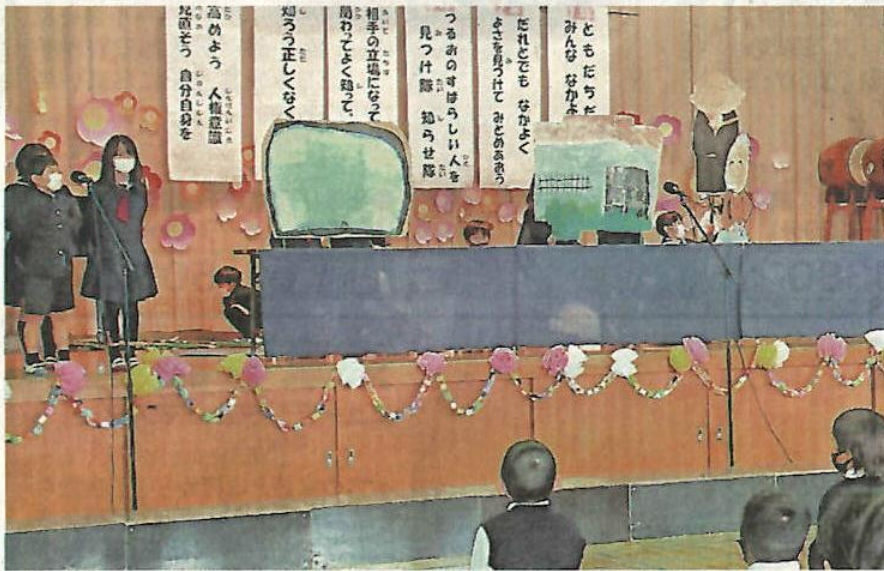
鶴尾小で「人権を考える会」

郷土の偉人功績知って

高松市松並町の鶴尾小学校（田中義人校長、全校児童154人）で、人権を考える会が開かれた。地域の発展に尽力した偉人や新型コロナウイルスによる差別問題などをテーマに、児童が学習の成果を発表し、参加した保護者らに人権の尊さを訴えた。

同校の恒例行事。各学年が総合的な学習の時間などで学んだことを保護者らに披露する場として毎年開催している。今年は11月26日に行った。

会場の体育館では、学年ごとにステージが上がって発表。このうち3年生は、旧鷺田村（西ハセ町）生まれで仁



3年生 劇交えて観賢など紹介

和寺などの大寺院の要職を歴任した平安中期の僧侶・観賢、紙すきを広め紙町の地名の由来にもなった江戸中期の高松藩士・南部伊平らの功績を、劇などを交えて伝えた。

また、遊休地を使って野菜作りに励んでいる住民グループの活動も紹介。サツマイモの栽培に一緒に取り組んだことなどを振り返り、児童は「私たちもまちを良くするために頑張りたい」と抱負を語った。

このほか、ハンセン病や新型コロナウイルスに対する差別問題、障害者スポーツ体験を通じた学びなどの発表があった。6年生は江戸末期に岡山藩で起きた「洩染一揆」から学んだことを伝えた後、伝統の太鼓演奏を披露し、会場に力強い音色を響かせた。

郷土の偉人・観賢について学んだことを発表する児童たち―高松市松並町、鶴尾小

2021 人権と考える会
フロアからの児童も「考える会」